

KANTEI

NEWS

vol. **177**
2026

CONTENTS

倫理綱領

1 会長挨拶

2 理事会開催報告

5 研修開催報告・予定

8 損害鑑定フォーラム特集

17 会員情報



公益社団法人 日本損害鑑定協会

鑑定協会 倫理綱領

(2021年3月25日 理事会承認)

◆前文

公益社団法人 日本損害鑑定協会（以下「本会」という）は、多発する自然災害をはじめとするさまざまな事故によって発生した損害に対して、公正且つ迅速な損害鑑定を推進し国民生活の安定・向上に貢献することを目的として事業を展開する。

そのために、会員及び会員に所属する損害鑑定人（以下「損害鑑定人」という）は、鑑定技能及び鑑定品質の向上に資する調査、研修に取り組むとともに、損害鑑定の健全な発展と社会生活の安定に資する公正・誠実・迅速な業務遂行を行う役割を担っている。

このような目的や役割を実現するにあたり、会員及び損害鑑定人は、損害を鑑定する専門家としての高度な知識、豊富な経験及び高いスキルを培うことで、公正且つ誠実な高い倫理性が求められる。そのため、会員等は、自らを律するとともに、社会の期待に応えるべく、ここに倫理規程・行動規範を定めるものとする。

倫 理 綱 領

第1条（使 命）

会員及び損害鑑定人は、公正・誠実・迅速な損害鑑定を行うことにより、健全な損害鑑定の実現と社会生活の安定に資することを使命とする。

第2条（使命の自覚）

会員及び損害鑑定人は、前条の使命を自覚しその達成に努める。

第3条（独立性及び信義誠実）

会員及び損害鑑定人は、職務上のあらゆる人間関係において、独立性を保ち信義に従い倫理的及び誠実に振る舞う。

第4条（法令等の遵守）

会員及び損害鑑定人は、各種法令等を遵守し、法令及び実務に精通するよう努める。

第5条（品位の保持）

会員及び損害鑑定人は、平素から常に人格形成と品位の保持に努める。また専門知識の研鑽及び実務経験の蓄積に努めると共に、本会が主催する研修に積極的に参加し、自己研鑽を重ね損害鑑定の品質の向上を図る。

第6条（信用の維持）

会員及び損害鑑定人は、業務を公正かつ誠実に行之、常に謙虚な姿勢を保持することにより、信用の維持に努める。

第7条（公益活動）

会員及び損害鑑定人は、その使命に相応しい公益活動に積極的に参加し、実践するよう努める。

会長挨拶



会長
太田 英俊

新年、あけましておめでとうございます。

新たな年を迎えるに当たり、年頭のご挨拶を申し上げます。

近年は全国各地で集中豪雨や、暴風、落雷、降雹、広域火災等の被害が頻発していますが、昨年末には青森県で震度6強を観測する地震が発生するなど、会員の皆さまにおかれましては相変わらずお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。また、被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

昨年当会は、設立50周年を迎える節目の年となりましたが、ASCを始めとした各種研修への参加者も増加し、11月に開催した第11回損害鑑定フォーラムは、これまでで最大の参加者、視聴者となりました。当会の活動に多くの方々の関心が高まったことを実感するとともに、今後も多くの方々から信頼され、期待に応え、支持されるべく活動して行かねばならないと、改めて強く感じる年となりました。

今年は午年です。馬は、力強さやスピードを表し、変化を恐れず新しい挑戦へ踏み出す

のに良い年であると言われていたようです。当会は、次の半世紀に向かって挑戦し、踏み出していく一年とすべく、努力してまいり所存でございます。

損害鑑定人の技量や品質の向上、知識の増強は、常に実践していくことが求められますが、既にご案内のとおり、当会独自の損害鑑定人向けのCPD制度を構築し、早期に皆さまへご紹介できるように準備を進めております。また、ASC等の研修内容の充実や、損害鑑定フォーラムの開催、首都直下といった超巨大地震を想定した態勢整備等々、多くの対処すべき課題についても対応を進めています。

これからも健全かつ先進的な損害鑑定業界として発展していけるよう、損害保険協会様をはじめ、各種専門領域の諸団体との情報連携を深め、一層の努力を重ねてまいりますので、皆さま方におかれましては、引き続き変わらぬご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、本年も皆さまにとって良い年となるよう心よりお祈り申し上げます。

理事会開催報告 2025

12月 定例理事会

【日時】 2025年12月9日(火) 13:00～16:15

【協議・決議事項】

1. 第11回損害鑑定フォーラム開催報告及び次年度運営について（決議）

- ・鑑定人は会場参加が210名、Web参加が120～140名で合計は推定330～350名、鑑定人以外は会場が70名、Webが170～190名であり、総計570～610名が参加と推定される。落雷、生成AIともにアンケートは「良い」「やや良い」が90%。
- ・毎年開催を継続し、2026年度も開催のうえ1月に始動したい。現行委員長は継続し、新たな理事に委員として参画願いたい。

→ 全会一致で承認決議

2. 外部理事・監事選定、監事候補、次年度体制、理事立候補事務について（決議）

- ・外部理事、監事ともに候補者へ会長、副会長にて面談の結果、当会との関連団体、損保社の経営、法務面等の業務を受けておらず、人物的にも支障はないと判断した。今後も特段の事象が生じなければ、理事会推薦候補とする。

→ 全会一致で承認決議

3. 理事増枠の検討について（協議）

- ・建築士会との連携、CPD認証制度などによる理事の協会業務量増加や損害鑑定人の増加などを踏まえると、理事増員が必要となる可能性がある。現状としては業務を果たしているものの、委員会やWGを兼務の理事が存在するなど検討していく必要はあるため、継続協議を行う。

4. 建築士会対応/損保協会等との協議状況について（協議）

- ・損保協会、損保社との協議を進める中で、報酬運営や建築士の割振り等につき、関係機関へ確認の必要が生じ相談のところ、スキームの要件としては否定的な見解。最終的な判断は12月～1月となるため、その後に、再度方針の協議を行う。

5. 損害鑑定人CPD認証制度：運営の状況について（協議）

- ・2027年4月に制度開始を想定したロードマップを組み進めている。CPDと試験は別物とし、CPDは協会内の全鑑定人を対象としてスタートしポイントを貯めていく。試験合格と

一定の CPD ポイント 取得で認証する。試験は IBT を利用する。将来的に専門科目や総合科目からなる上位ランクを設け、2段階の認証を想定している。

6. 地震保険基準関連取組について（協議）

- ・損保協会より相談があり、意見交換を進める。

7. 事務局就業規則等の改訂について（決議）

- ・時世に合わせ、事務局職員の定年を現行の 60 歳から 65 歳へ延長する。育児休業・介護休業規程は法改正へ対応し、始業時刻等の変更、短時間勤務制度のニーズが高いと判断し導入する。

→ 全会一致で承認、決議

8. 業務執行状況報告（書面報告・決議）

- ・業務執行理事の書面報告を確認する。

→ 全会一致で承認、決議

9. 委員会報告・情報共有（報告）

（1）総務委員会

① 2025 年度収支概況等について

フォーラムは運営の抑制が効いており支出が抑えられた。CPD 認証制度は大きな変動なし。年度を通じて予定していた赤字幅は減少の見込み。

② 地域懇談会の開催について

2026 年 4 月 10 日に福岡、同 17 日に大阪、同 24 日に名古屋で開催する。東京は 4 月の平日に開催する。

③ 入会希望会社情報

入会照会が 2 社あり。1 社は規約等の関係により入会辞退。1 社は申請書類待ち。

（2）教育研修委員会

① ASC アドバンス研修 / 次年度 ASC 研修の持ち方について

アドバンスは、12/16 にツーバイフォー工法（ツーバイフォー建築協会）、1/28 に不測かつ突発的な事故の考え方（早稲田大学中村教授）、2/20 に利益損害（MDD）を実施予定。2026 年のスタンダードは、5 日のうち 2 日を集合開催。集合開催分は収録のうえ、後日 Web 配信も行う。

地震保険損害認定基準研修は、4/20～21は福岡、4/27～28大阪、5/11～12東京で開催。福岡、大阪は36名、東京は54名を定員とする。

(3) 総合企画委員会

① 女性活躍推進 WG の運営状況について

第2回女性意見交換会を2/6に予定。1部のWeb配信は役職や性別に限らず視聴可能とする。2部は会場参加の女性のみで実施。青森県東方沖の地震の対応状況によって変更の可能性はある。

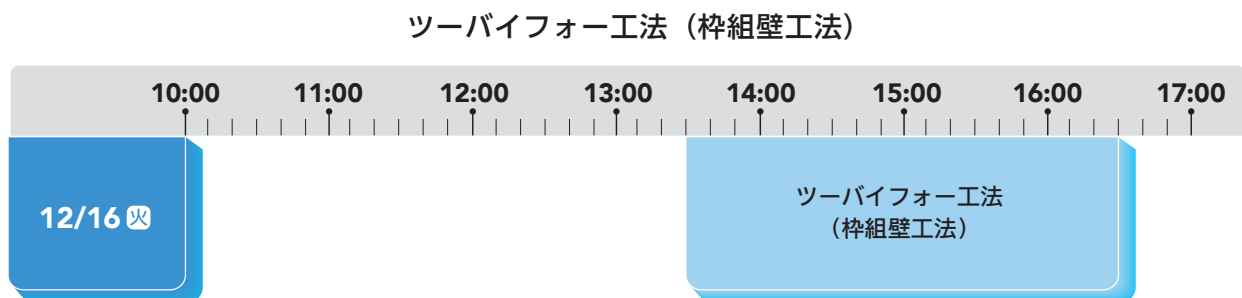
② ACC26 への参画について

AICLA より 2026 年の案内があり、タイ・プーケットで5月に開催。パートナーとして案内を受けている。参加者は今後調整する。

研修開催報告

【ASC 研修アドバンス】

損害鑑定に関わる高度な専門知識、技術習得を目的としたアドバンスを実施しました。現場調査、特に地震保険の査定において、ツーバイフォー工法（枠組壁工法）の物件での損害認定で悩まれるケースが多いようであり、同工法に関わる研修の要望が多くいただいております。一般社団法人ツーバイフォー建築協会様にご協力をいただき、ツーバイフォー工法の基礎知識について、損害鑑定人向け研修を実施しました。ニーズが高く、受講者は148名でした。



< 受講者の声 >

- 歴史の内容は非常に興味深く、また実際の地震における写真やデータで枠組壁工法の住宅の耐久性を学ぶことができました。
- 在来軸組工法との違いについても説明いただきわかりやすかったです。
- 配布された資料がとてもわかりやすく、今後の業務に役立つと思います。
- 基本として性能、構造、釘打ちなど細かい点まで学べ、今後の地震算定にもおおいに活用できるものと思いました。ツーバイフォー工法は苦手意識がありましたが、払拭でき勉強になりました。
- 告示規定に関する部分が大いに勉強になりました。

研修開催予定

【今後の開催予定】

2025年度の実施が確定している研修は、次のとおりです。

○ ASC 研修アドバンス

コース名・講義名	内容	場所・日程
アドバンス 「利益損害の考え方と算出手順」	特定の業種を題材として、利益損害の考え方、製品や半製品の製造原価の算出手法等を理解する。	2026年2月10日(火) 13:30～16:30 ※ Web 開催

【2026年度の開催予定】

2026年度に実施が確定している研修は次のとおりです。

研修名	講座または内容	日程・場所
ASC 研修 「ベーシック」	損害鑑定人の経験年数が3年程度までの方を想定しており、延べ8講座	2026年5月26日(火)～29日(金) 会場：損保会館(東京)
ASC 研修 「スタンダード」	損害鑑定人の経験年数が5年程度ある方を想定しており、延べ10科目	●第1クール 2026年6月17日(水)～19日(金) ●第2クール 2026年7月2日(木)～3日(金) ※第1クールはWeb配信、第2クールは集合(会場：損保会館)で行います。第2クールは、後日、講義を収録したWeb配信で受講も可能です。
地震保険損害認定基準研修	建物の工法別に、地震保険の損害調査方法、ポイント、地震アプリの使い方、および傾斜の測定機器の使用方法を習得する	●福岡会場 2026年4月20日(月)～21日(火) 会場：アクロス福岡 ●大阪会場 2026年4月27日(月)～28日(火) 場所：北浜フォーラム ●東京会場 2026年5月11日(月)～12日(火) 会場：損保会館 ※いずれも集合開催です。

- ASC 研修「ベーシック」は、経験が概ね 1 年以上はある鑑定人を対象とします。
- ASC 研修「ベーシック」は、会場参加ができない方向けに、別途、講義を収録した WEB 配信を、7月に行う予定です。
- ASC 研修「スタンダード」は、10 講座のうち要望の多い 4 講座は集合方式で実施します。集合方式で行う 4 講座は、会場参加ができない方向けに、別途、講義を収録した WEB 配信を、8月に行う予定です。
- ASC 研修「ベーシック」、「スタンダード」は、ともに単講座受講が可能です。
- 地震保険損害認定基準研修は、要望の多い「地震アプリの使用方法」は今年度も実施いたします。

第11回 損害鑑定フォーラム特集

The 11th SONGAI KANTEI FORUM
第11回 損害鑑定フォーラム

テーマ **挑戦**
~損害鑑定を新たなステージへ~

2025
11.29 (日)
13:00~17:50 (開場 12:00)

会場
御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター2F
Sola city Hall,
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6

主催
公益社団法人 日本損害鑑定協会
後援
一般社団法人 日本損害保険協会
一般社団法人 日本損害保険代理業協会
株式会社 保険毎日新聞社
一般社団法人 外国損害保険協会
公益社団法人 全国消費生活相談員協会
株式会社 新日本保険新聞社

プログラム	
	<p>総合司会 株式会社 東京損害鑑定 柏木 晋太 ※プログラムの内容は、事情により変更が生じる場合があります。(敬称略)</p>
13:00-13:10	<p>オープニング 開会挨拶 公益社団法人 日本損害鑑定協会 会長 太田 英俊</p>
13:10-15:10	<p>1. 落雷 事業解決の出口を探る 多発する落雷事故のメカニズムを知り、判断の“羅針盤”を手に入れる</p> <p>【協力いただいた方】</p> <p>一般社団法人 日本電機システム工業会 医務委員会 山田 康春 委員長 株式会社 フランクリン・ジャパン 取締役 松井 伸弘 有限会社 むさし野損害鑑定 代表取締役 竹内 康人</p> <p>【ワーキンググループ】</p> <p>(リーダー) 株式会社 甘糟鑑定事務所 小森 成示 株式会社 高本損害鑑定事務所 浅野 麗奈 株式会社 三和鑑定事務所 清水 周</p>
15:10-15:40	<p>休憩 コーヒーレイク (協賛企業紹介)</p>
15:40-17:40	<p>2. 生成AI 損害鑑定にもたらす利と弊 生成AIの“今”を知り、損害鑑定人は、どう向き合い、どのように返すか</p> <p>【協力いただいた方】</p> <p>国立情報学研究所 研究支援室 藤前 功</p> <p>【ワーキンググループ】</p> <p>(リーダー) 株式会社 名 庵 山川 康介 株式会社 アスロ 総合鑑定 国藤 達彦 損害鑑定 有限会社 溝渕 洋二</p>
17:40-17:50	<p>エンディング 閉会挨拶 公益社団法人 日本損害鑑定協会 理事 田辺 克久</p>



会場風景



オープニング

2025年11月29日に「第11回損害鑑定フォーラム」を開催しました。

昨年に第10回の記念大会を迎え、新たなスタートを切りました。

そこで「挑戦 ～損害鑑定を新たなステージへ～」をメインテーマとし、若手損害鑑定人をメインターゲットに据え、「落雷」「生成 AI」の二つの小テーマを設け、外部の専門家の講演を多く入れた構成としました。協会内外を問わず関心が高かったようであり、会場であるソラシティカンファレンスセンターも、Web視聴者も、昨年を2割程度上回る過去最大の参加者となりました。

参加いただいた方をはじめ、ご後援、ご協賛、ご支援を賜りました皆さま、関係団体の各位へ、改めて御礼申し上げます。



挨拶する太田会長

1. 落雷

事案解決の糸口を探る

頻度が高くなっている落雷事故による損害との申告ですが、落雷が原因であるのか、落雷であった場合は、どのような損害が発生するかといった事象は、多くの損害鑑定人を悩ませています。

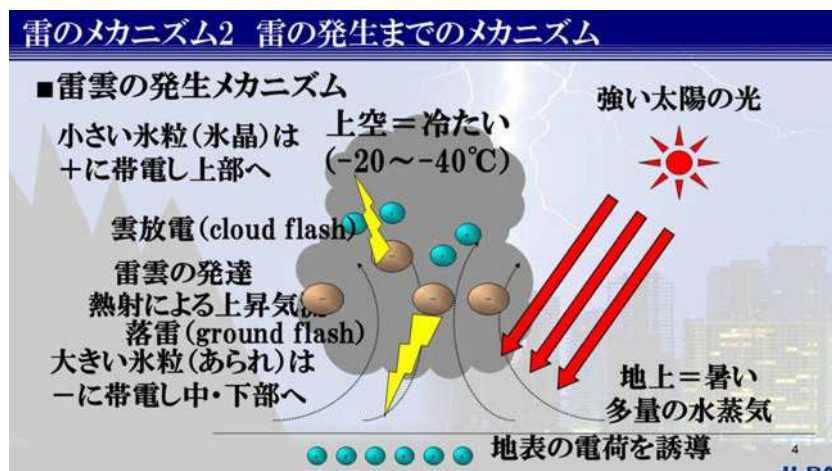
一般社団法人雷保護システム工業会の山田康晴技術委員会委員長に、雷の仕組みや建物、設備へ与える影響、雷サージ等について、株式会社フランクリン・ジャパンの松井倫弘取締役技術部部長に、雷の種類、季節による特徴、雷センサーの仕組み、雷による破損の事例等について、ご講演いただきました。

後半は、お二方と損害鑑定人4名により、損害鑑定人が判断に苦慮した事例等に基づき、パネルディスカッションにより考え方を深めました。

講演



講演中の一般社団法人雷保護システム工業会の山田委員長



山田委員長講演資料の抜粋

講演



講演中の株式会社フランクリン・ジャパンの松井取締役

広範囲で発生した雷害



- 山形県の山間部で発生 2016/03/18
- 冬季雷発生地域（沿岸より20km）
- 携帯電話基地局に落雷
- 被害は、電力設備だけではなく民家の電子機器に及んだ。
- 被害が及んだ範囲は、携帯基地局から東側に1000 m、西側で500 m（線路巨長）に及んだ。
- 携帯基地局に被雷した雷は、冬季雷で、波尾長の長い（＝持続時間が長い）性状を持つ雷であったと推察される。

Copyright(C) 2017 Franklin Japan Co. All Rights Reserved

49

松井取締役講演資料の抜粋

1. 落雷

事案解決の糸口を探る

パネルディスカッション



ご協力いただいたむさし野損害鑑定・竹内社長



ワーキングリーダーの甘糟鑑定・小森損害鑑定人



ワーキングメンバーの三和鑑定・清水損害鑑定人



ワーキングメンバーの高本損害鑑定・浅野損害鑑定人

1. 落雷

事案解決の糸口を探る

2. 生成AI

損害鑑定にもたらす光と影

日毎に進化する生成 AI は、確実に損害鑑定業務に影響を与えるようになってきています。光の面では、業務の高度化、効率化に寄与するでしょうし、影の面では不正請求を誘発しかねないなどが考えられます。フェイクメディアでは世界的にも第一人者である国立情報学研究所の越前功教授に「インフォデミック時代におけるフェイクメディア克服の最前線」と題し、生成 AI の種類や第一線の現状、課題、どのように対処していくか等について、ご講演をいただきました。

後半は、越前功教授と損害鑑定人3名によるパネルディスカッションにより、損害鑑定業務においてどのように活用していくか、損害鑑定人が生成 AI にどのように立ち向かうかといった点について議論しました。

講演



講演中の国立情報学研究所越前教授

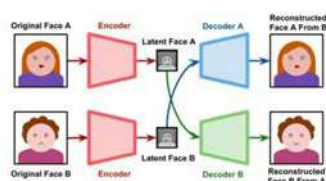
顔を対象としたフェイクメディアの生成:5つのタイプ

15

5. 顔の入れ替え (Face swap)

- ・ ソースとなる映像の顔部分をターゲットの顔と入れ替える (Faceswap など)

Deep learning based face swap



Original Deepfake (Faceswap)¹
Image: Alan Zucconi



越前教授講演資料の抜粋

パネルディスカッション



ワーキングリーダーの名鑑・山川損害鑑定人



ワーキングメンバーのアスカ総合鑑定・加藤損害鑑定人



ワーキングメンバーの湊損害鑑定・溝渕損害鑑定人



損害鑑定フォーラムに合わせ、タイの保険委員会（OIC）の方々が来会されました



エンディング



挨拶する田辺フォーラム実行委員長(理事)



■本社移転

(2025年11月1日)

株式会社相鑑

【新住所】 〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜1-4-13 SF福岡ビル8階

■所在ビル名変更

(2025年12月27日)

株式会社名鑑松本支社

【新名称】 〒390-0814 長野県松本市本庄1-3-10 松本博労町ビル8階

■支社支店変更・統合

(2026年1月1日)

株式会社中央損保鑑定

仙台支店を東北支店へ名称変更

郡山支社を仙台支店へ統合

新潟支社を東北支店新潟支社へ変更



公益社団法人 日本損害鑑定協会

2026年2月1日

公益社団法人 日本損害鑑定協会

〒101-8335

東京都千代田区神田淡路町2-9 損保会館12階

TEL03-3254-6454

<https://www.laaj.or.jp/>